

FY2026 1Q

2026年11月期 第1四半期

# 決算補足説明資料

---

2026年4月10日



大阪有機化学工業株式会社

(東証プライム 4187)



# ■2026年11月期 第1四半期決算概要

## 外部状況

雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移しましたが、物価上昇や原材料・エネルギー価格の動向、中東情勢の緊迫化等により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

## 売上

電子材料および機能化学品事業では前年同四半期比で売上高が増加しましたが、化成品事業は減少しました。この結果、売上高は前年同四半期比6.5%増の90億7千2百万円となりました。

## 営業利益

売上高の増加に伴い原材料費などが増加しましたが、在庫評価の増益寄与等により、営業利益は前年同四半期比34.2%増の18億3千2百万円となりました。

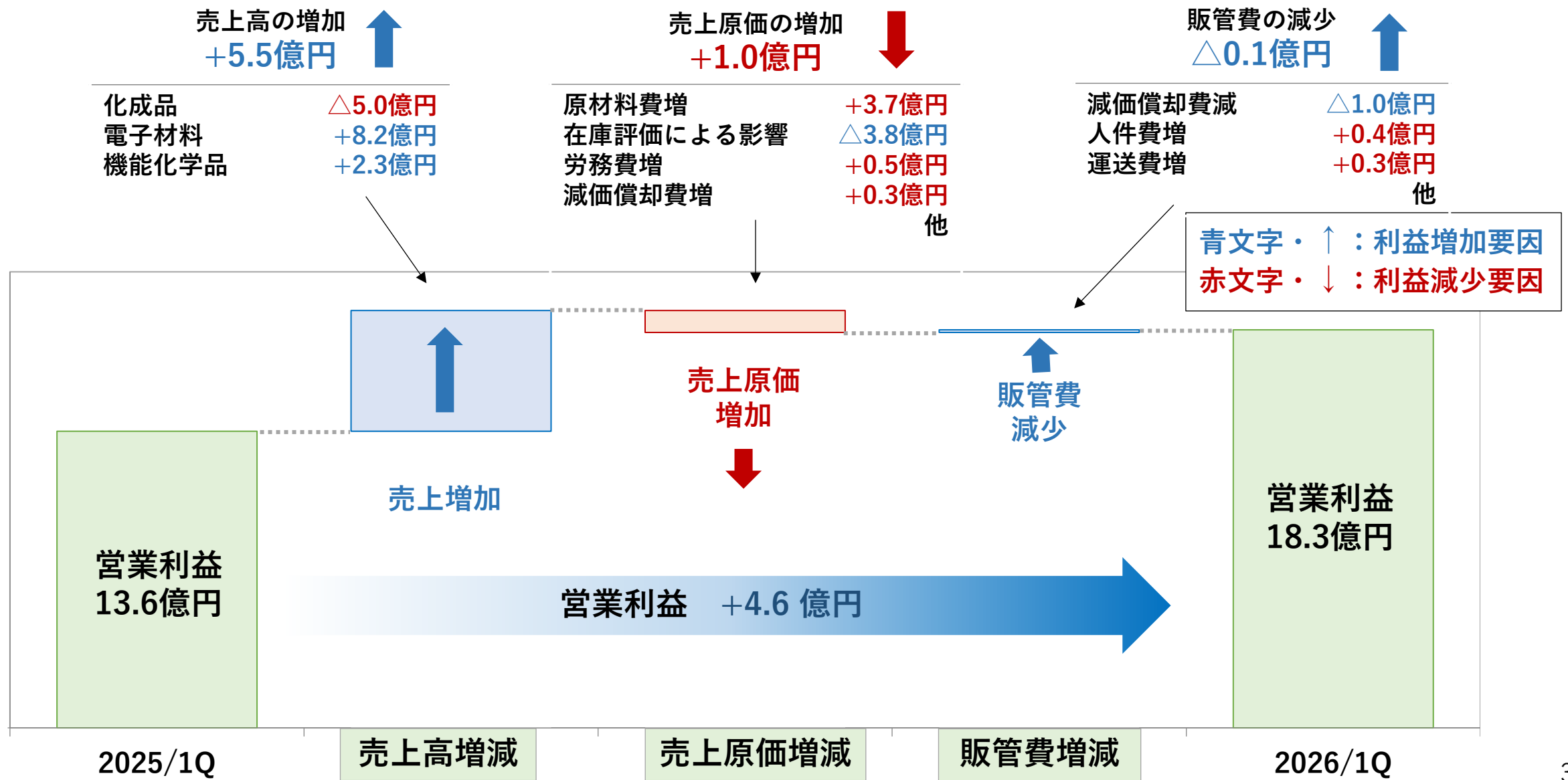
(百万円)

	2025/11 1Q 実績	2026/11 1Q 実績	前年同期比		上期予想比	
			増減額	増減率	上期予想	進捗率
売上高	8,516	9,072	+555	+6.5%	18,200	49.9%
営業利益	1,365	1,832	+467	+34.2%	3,100	59.1%
経常利益	1,480	1,904	+423	+28.6%	3,200	59.5%
純利益*	1,035	1,285	+250	+24.2%	2,200	58.4%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	73,400	65,400	—	—	—	—
為替 (¥/\$)	154	155	—	—	—	—

\*親会社株主に帰属する四半期純利益

# 営業利益の増減要因

**増減要因** 売上高は化成品は減少したものの電子材料が大きく増加しました。売上高増加に伴い原材料費が増加、人件費も増加しましたが、減価償却費の減少や、在庫評価が増益に寄与しました。その結果、営業利益は4.6億円の増加となりました。



1Q 売上高	2026年 通期予想	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率																		
<b>28.0</b> 億円	<b>137.0</b> 億円	<b>20.4</b> %	<p>■ 売上高 ● 営業利益率 (右軸)</p> <table border="1"> <caption>売上高・営業利益率 (2025年1Q - 2026年1Q)</caption> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>売上高 (億円)</th> <th>営業利益率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2025年1Q</td> <td>33.1</td> <td>15.9</td> </tr> <tr> <td>2Q</td> <td>32.1</td> <td>14.8</td> </tr> <tr> <td>3Q</td> <td>33.8</td> <td>19.0</td> </tr> <tr> <td>4Q</td> <td>34.1</td> <td>16.1</td> </tr> <tr> <td>2026年1Q</td> <td>28.0</td> <td>14.9</td> </tr> </tbody> </table>	期間	売上高 (億円)	営業利益率 (%)	2025年1Q	33.1	15.9	2Q	32.1	14.8	3Q	33.8	19.0	4Q	34.1	16.1	2026年1Q	28.0	14.9
期間	売上高 (億円)	営業利益率 (%)																			
2025年1Q	33.1	15.9																			
2Q	32.1	14.8																			
3Q	33.8	19.0																			
4Q	34.1	16.1																			
2026年1Q	28.0	14.9																			
<p>● <b>外部環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車生産は日本や欧州で弱含む一方、インドや北米向けは底堅く、米国関税政策の不透明感を背景に生産判断は慎重化。</li> <li>ディスプレイ関連は、中国の補助金政策の継続や米国の関税政策を見据えた前倒し需要を背景に、大型ディスプレイを中心に底堅く推移。</li> </ul> <p>● <b>当社の状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自動車用塗料向けは低調。</li> <li>ディスプレイ用粘着剤向けは顧客の稼働調整により減少。</li> <li>UVインクジェット用インク向けは低迷。</li> </ul> <p>● <b>市場におけるリスク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中東情勢等の地政学的リスクの影響。</li> <li>米国関税政策の影響。</li> </ul>																					

1Q 売上高	2026年 通期予想	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
<b>45.5</b> 億円	<b>173.0</b> 億円	<b>26.3</b> %	

## ●外部環境

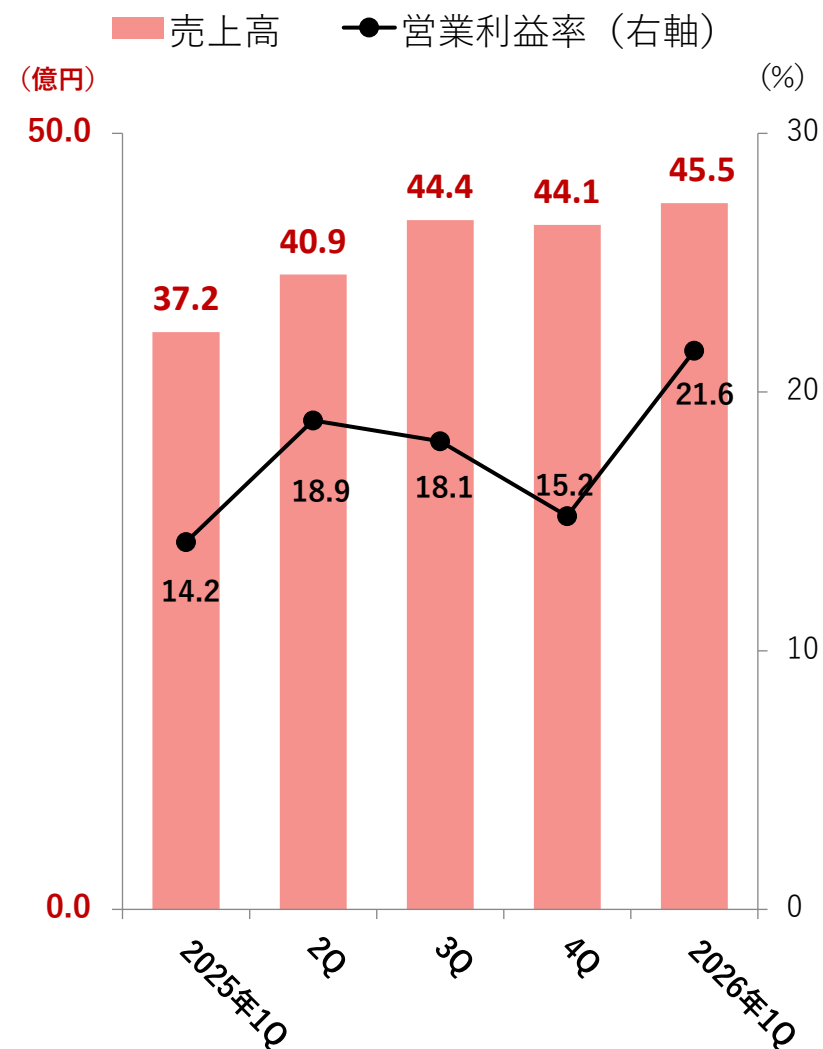
- ・半導体市場はAI向けなど最先端分野を中心に高成長が継続。
- ・ディスプレイ関連は、中小型パネル市況の伸び悩みを背景に、液晶パネル分野で台湾・日本メーカーの事業再編が進行。

## ●当社の状況

- ・生成AI関連を中心とした半導体需要拡大を背景に、主力のArFレジスト用原料は好調に推移し、最先端のEUVレジスト用原料は大幅に増加。
- ・表示材料グループは、低調に推移。

## ●市場におけるリスク

- ・米中経済対立の激化。
- ・中国での半導体内製化の進展。



1Q 売上高	2026年 通期予想	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
<b>17.1</b> 億円	<b>65.0</b> 億円	<b>26.3</b> %	

## ●外部環境

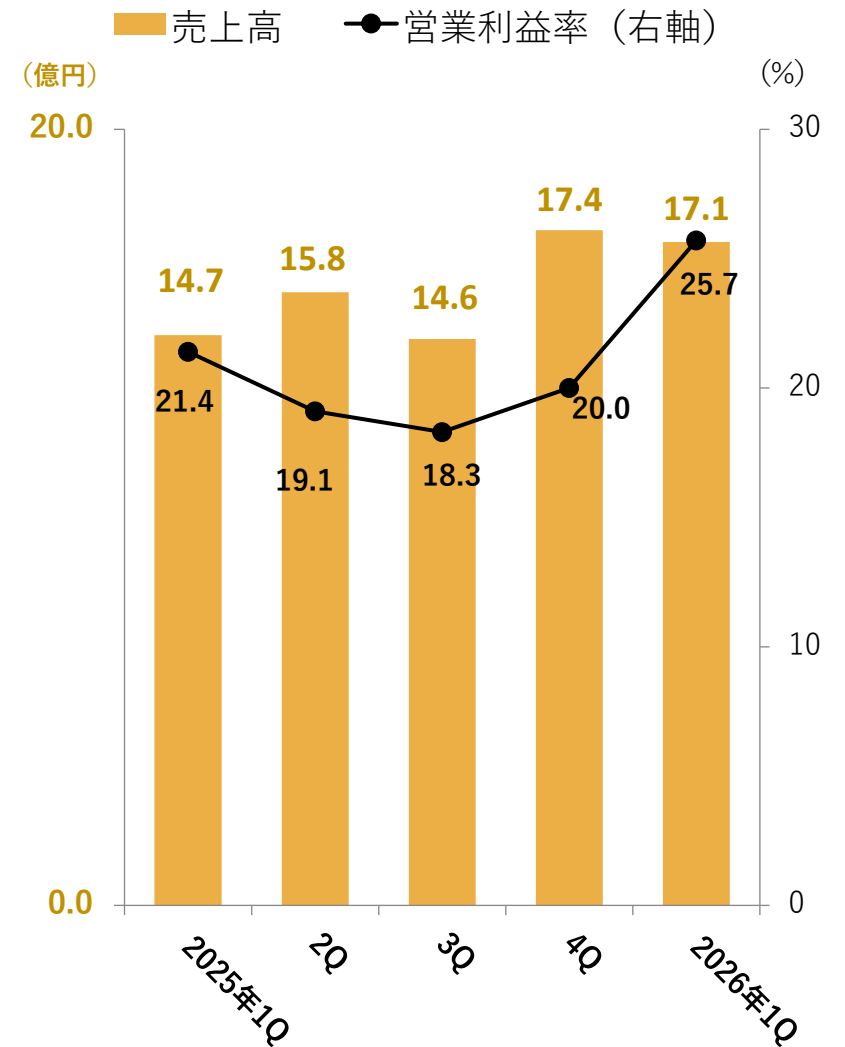
- ・国内化粧品市場は、堅調に推移する一方、成長は緩やか。
- ・中国では景気減速や、ローカルメーカーの台頭などにより競争環境が変化。
- ・半導体市場の好調を受け関連材料の需要が拡大。

## ●当社の状況

- ・化粧品原料は堅調。季節要因などにより前四半期比では減少。
- ・子会社の高純度特殊溶剤は好調に推移。

## ●市場におけるリスク

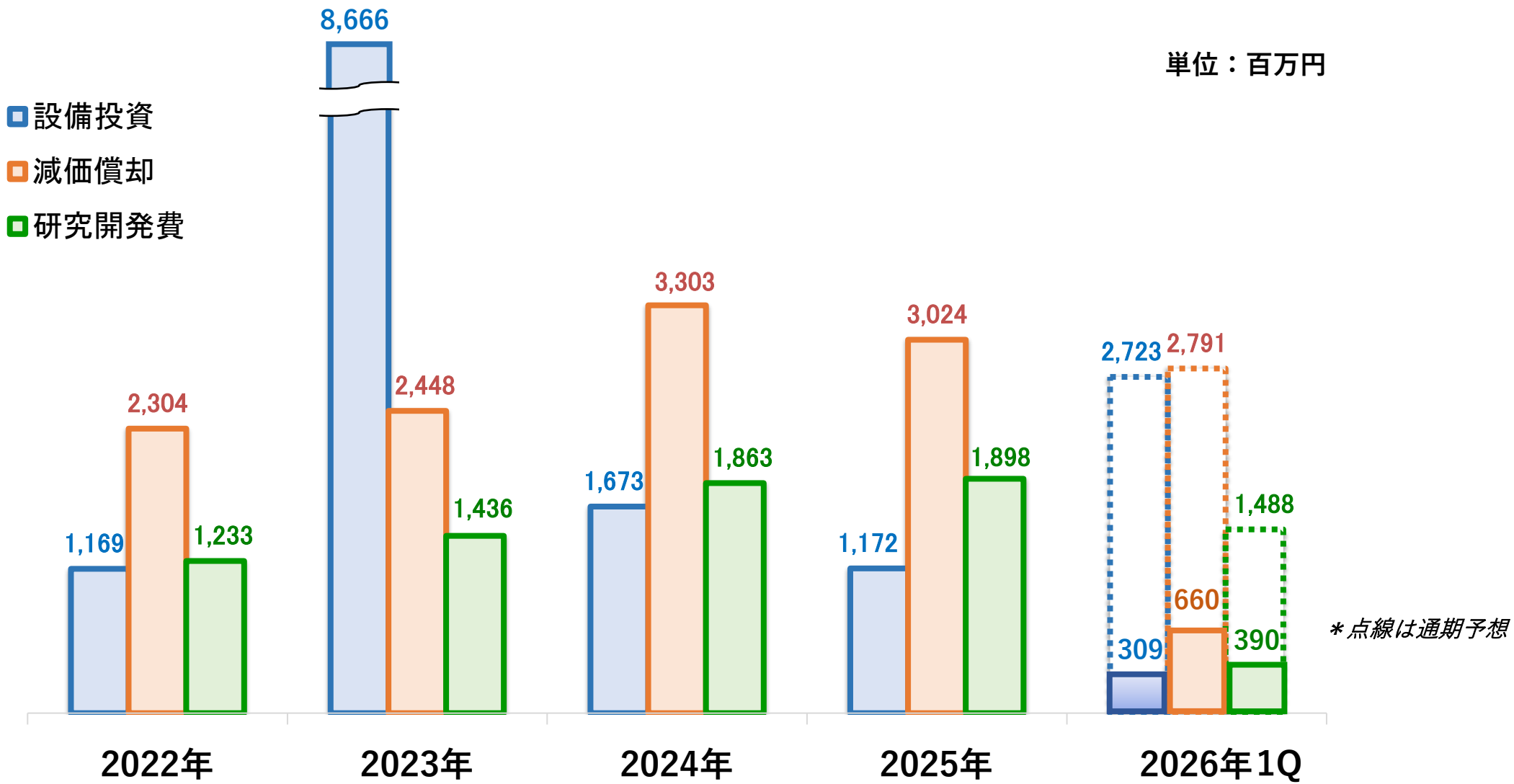
- ・中国市況回復の遅れ。



# 設備投資・減価償却費・研究開発費の推移

概要

2023年に半導体材料製造設備などで、86.6億円の設備投資を行いました。  
減価償却費は2024年をピークに減少傾向で、2026年1Qでは6.6億円（前年1Q：7.2億円）となりました。



※ 設備投資は建設仮勘定を除く本勘定振替ベースの金額

# ■中東情勢緊迫化による影響について

## 概要

中東情勢の緊迫化を背景に、原材料や生産に必要な燃料の調達面で不透明感が高まっており、今後の情勢次第では影響が生じる可能性を認識しております。

## ●外部環境

- ・中東地域における地政学的緊張の継続、高まり。
- ・原油市況の変動を背景に、ナフサを含む石油化学原料価格の高騰および先行き不透明感。
- ・ナフサ由来を中心とした原材料ならびに生産に必要な燃料の調達面への影響懸念。

## ●当社製品供給への影響

- ・現時点では、短期的には当社製品の供給に大きな支障が生じる状況には至っておりません。
- ・今後の原材料などの調達状況は調査中であり、原材料費や燃料費などのコストが上昇しています。
- ・中東情勢の今後の動向次第では影響が生じる可能性があります。

## ●当社の対応

- ・安定供給の維持を最優先とした対応。
- ・原材料メーカーおよび顧客と緊密に連携し、調達・需給および市況動向について協議を行いながら、継続的に注視。
- ・調達先分散や在庫確保を通じた供給体制の強化。
- ・原材料費や燃料費の上昇を踏まえた、製品価格への適切な転嫁の実施。

※本件に関して、現時点では当社業績予想へは反映しておりません。今後、影響が生じる場合には速やかにお知らせいたします。

### < 将来情報に関する注意事項 >

本資料の業績予想や経営計画は、現時点において見積もられた見通しや計画であり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績等は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。



大阪有機化学工業株式会社

【お問い合わせ】

管理本部 IR・広報担当

TEL 06-6264-5071 (代表)